

やったぶんだけ、自分に返ってくる —私と子どもたちとの合言葉—

楠本 恵理

(生徒指導力高度化コース第6期生)

教職専門実習は、今勤務している「凌風学園」にお世話になりました。入学したての1年生に関わらせてもらったり、6年生の研修旅行に連れて行ってもらったりと、多くのことを経験させていただきましたが、実習生として、どう子どもたちと関わってよいのか分からずにいました。そのとき担当していただいた先生に『**実習生とかじゃなくて、その子に関わる一人の大人として、目の前の子どもがどうなってほしいか、どんな力をつけてあげたいかを考えて接してみたら？**』という言葉をかけていただきました。この言葉は、教師になった今でも私の中にあって、子どもたちと接するときの原点になっています。

採用1年目は5年生を担当し、採用2年目、私は6年生の担任することになりました。そしてAさんを受け持つことになりました。Aさんは昨年度は隣のクラスで、ゆっくり話したことはありませんでした。正直、私は今のこのクラスを受け持つとなったときに、Aさんがいることに不安がありましたし、構えていた部分がありました。そして、どうしても課題ばかりに目が行ってしまうというのがそのときの現状でした。4月のAさんの課題は、①分からないことをすぐ投げ出してしまう。②宿題も授業も適当にやってくる。③嘘をつく、ごまかす。④自分の気持ちをうまくコントロールできない。などが挙げられます。そして、叱ってばかりの私との関係もありよくありませんでした。

そんなAさんを受け持つということで、実習生のときの先生に言っていた言葉を思い出して、Aさんにどんな大人になってほしいか、そのために、今どんな力をつけていくべきかを考えました。Aさんは自分の感情をうまくコントロールできないことから、4月当初は周りの友だちからも、少しだけ距離をとられているように感じました。ですが、集団登校では低学年に優しく接し、とても面倒見がよい面があったので、その優しさをみんなにしっかりわかってもらい、Aさんの居場所を作っていきたいと考えました。そのためには、ぐっとこらえ、我慢する力や言葉でしっかりと自分の思いを伝える力、諦めず、物事と向き合い、続けていく力、が必要であると考えました。そして、周りの環境のせいばかりにするAさんに「まずは自分自身が変わらないといけない周りは変わらない」ということを伝え続けました。何とか、Aさんによってほしくて、何とか、周りの子どもたちのAさんへの印象を変えたくて、私自身ももがきながら、毎日を過ごしました。そこで大切にすることが2つあります。

1つ目は、「Aさんから逃げない!」ということです。教師であっても、やはり指導したり、

叱ったりすることは本当に力を使います。A さんだけを見ているわけでもありません。ですが、子どもたちから発せられるちょっとした言葉や行動に、「ん？」と思ったら、見逃さずにその場で指導しました。A さんに真正面から向き合い、A さんだけでなく、周りの子どもたちにも逃げずに真正面から向き合ってきました。そうすることで、私と A さん、私と周りの子どもたち、そして A さんと周りの子どもたちとの信頼関係が少しずつ築いていっているように感じました。

そして、2 つ目がお母さんと思いを共有することです。大学院時代、「家庭との連携」が大事だと学びましたが、実際に担任になった今、家庭と学校が同じ方向を向いて、子どもに接することがどれだけ大切か、その大切さを改めて感じます。お母さんにも、4 月当初から、「私は A さんにこんな大人になってほしくて・・・そのためにはこういう力が必要やと思うんです」ということを伝えました。そして、指導するたびにどんな小さなことであっても、内容やそのときの A さんの様子を伝えました。もちろん、がんばっていたこともたくさん伝え、お母さんと A さんの成長を一緒に見守っていける環境を作っていました。

お母さんの協力、そして、A さん自身ががんばってきた結果、現在の A さんはいろいろな面で成長しています。2017 年、年明けに書き初めをしました。題は「今年の漢字」。A さんは「諦」と大きな字で書きました。込めた思いは、「ぼくは今年、勉強を頑張りたいです。6 年生になって、難しいこともたくさんあったけれど、自分なりに勉強を頑張ってきました。4 月からは 7 年生になります。楠本先生が言っている“やったらやった分だけ自分の力になる”という言葉信じて、7 年生に向けて、最後まで諦めずにもっと頑張っていきたいです」というものでした。また、国語科の「忘れられない言葉」、随筆を書く単元では、私がおたよりによく書いている「継続は力なり」という言葉を選んで、自分の思いを素直に書いていました。

これまでの関わりの中で、うまく A さんに伝わっているかずっと不安でしたが、A さんと周りの子どもたちの関係性やこの文章を読んだときに、自分がこれまでやってきたこと、伝えてきたことは間違っていないなかったんだと感ずることができました。

実習生とは違い、実際にいち担任として、子どもたちに関わっていく中で、多くの責任を感じています。日々、「今日のこの声掛け、指導は大丈夫だったかな」と反省を繰り返す毎日です。実習生だったときは、目の前の子どもの姿だけを見て、いい・悪いを判断していましたが、そうではなく、将来を見据えて、子どもたちのことを考えて、接していくことが大切なのではないかと、私は思っています。A さんだけでなく、子どもたちみんながの変わっていく姿や頑張っている姿を見れば、教師になって本当によかったなと思います。

私自身、採用 2 年目でうまくいかないことも多くありますが、たくさんの教職員の方や保護者の方に支えられながら、子どもたちと一緒に成長していけるように、これからはがんばっていかうと思います。今のクラスも残り 7 日です。今の私にできることを、全て、子どもたちに伝えられるよう、また明日から頑張っていきます。みなさんも大学院生活でいろいろなことに悩んだり、教職専門実習で多くのことを感じたりすると思いますが、それらは、これからのみなさんに必ずつながっていくと思います。